



# なんじゃもんじゃ

Vol. 30

Municipal Ena Hospital Public Relations Magazine

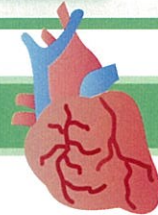
## INDEX

不整脈の話	…1
輸血療法委員会	…2
母乳育児相談室開設のお知らせ	…2
健康・福祉祭に参加して	…3
出前健康相談等開催のお知らせ	…3
外来担当表	…4
クイズ	…4
編集後記	…4



当院は平成22年より  
(財)日本医療機能評価  
機構の認定を受けてお  
ります。

## 不整脈の話



みなさん、**不整脈**という言葉をよく聞かれることがあると思いますが、いったいどんなものか、ご存じでしょうか？これは読んで字のごとく、整っていない脈ということなのですが、そもそも脈(脈拍)とは何でしょう？

**脈拍**とは、心臓の筋肉が定期的に収縮することで全身に血液を送りだされる際に生じる波動が、全身の動脈に伝わり触知されるもので、通常、体表面の脈の触れるところ(手首や頸など)で、数の測定や規則性を判断します。つまり、脈が乱れたり、早くまたは遅く打つということは、心臓の刺激に変動あるということで、場合により、重篤な症状を呈する場合があります。

先ほど、脈が整っていないものを不整脈というを書きましたが、不整脈には大きく分けて、脈が不規則に打つタイプのもので、規則正しくは打つものの、数が異常であるタイプのものがあります。

脈拍数は、通常安静時で、60-100回/分で、100より多いものを**頻脈**、60より少ないものを**徐脈**(一般的には50以下)と呼びます。

規則正しくて脈が速い場合、通常は緊張したり、飲酒や運動後になるものがほとんどで、治療を要しません。安静や時間経過で軽快することがほとんどですが、中には緊張がとれずに動悸感が繰り返される場合もあり、その場合は軽い安定剤等を使用することもあります。病的な**頻脈**の場合、大抵は突然出現して治る時も突然戻ることが多いようです。動悸以外にふらつき等の症状を伴うこともあり、このようなタイプのものは受診が必要です。

次に**徐脈**の場合ですが、一般に運動選手等

は脈拍が少ないことが多く、これは一回に心臓から拍出される血液量が多いため、脈拍が少なくても問題ないためです。某有名女子マラソン選手は普段から脈拍が30台から40台だそうですが、一般の人では、まず頭に十分血液が送られず、ふらつき、失神等を引き起こす場合があります。

脈が不規則に打つタイプの一つに、脈が飛ぶというものがあります。これはいくつか正常に脈が打ったあとに脈が1回途切れる状態で、**期外収縮**と呼ばれ、実際は心臓がとまるのではなく、早期に打つため脈圧が小さく、脈を触知しにくい状態です。特に治療を要さないものから、薬剤、手術を必要とする重篤なものまであり、後述の検査が必要です。

また、よくあるものの中で脈がばらばらになる**心房細動**という病気があります。これは頻拍となり心不全を引き起こしたり、心内血栓を生じて脳梗塞等の合併症を引き起こします。発症後時間が経つにつれ、塞栓の危険性が増えるため、早めの受診が必要です。

**不整脈の一般的な検査**としては、心電図、レントゲン、採血に加え、24時間心電図、心臓超音波検査があり、どのようなタイプの不整脈か、また心臓の状態がどうかを判断した上で、生活指導や、投薬、場合によりカテーテル手術等の治療を選択します。

いずれも、外来でできる比較的身体的負担の少ない検査ですので、不整脈を自覚される場合は、一度、検査をお勧めします。

(内科・循環器科 松野由紀彦)



## 輸血療法委員会について



輸血療法委員会は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、医事課職員から構成され、当院における輸血が安全に行われるように取り組んでいます。

近年血液製剤の安全性は大幅に高くなってきています。しかし潜伏期の献血によるウイルス感染例や、輸血後の副作用もわずかながらも存在しています。

輸血は、現在の医療に必要不可欠なものです。科学技術が著しく進歩した現在においても、血液は未だ人工的に造り出すことができないものであり、献血者の血液が患者さんの命を支えています。

輸血を受ける方の約85%が50歳以上、献血を支える方の約85%が50歳未満という輸血医療の現状において、少子高齢化が進展しており、10代・20代に代表される若者の献血者は近年減少傾向です。患者さんが必要な輸血を受けられないという最悪の事態が生じかねません。

輸血療法委員会は、基本的に毎月第一金曜日に開催しています。

議題は前の月に使用した血液製剤（赤血球濃厚液、凍結血漿、血小板等）が適正に使用されているか否かの検討を行い、不適切な使用に対しては、委員長から担当医師に直接指導を行っている。また、返却件数及び廃棄された事例の検証を行い廃棄件数の減少に努力しています。

アルブミン製剤に於いても、適正に使用されているか検討し不適切な使用があれば委員長から担当の医師に適切な使用方法を指導しています。

輸血副作用があった場合は委員長に報告し、必要であれば赤十字血液センターに原因調査を依頼しています。

年に3回の輸血ニュース発行、年1回全職員を対象にした研修会を行っています。輸血に使用している血液は、全て皆様からご好意により献血頂いた血液です。一人でも多くの患者さんを救うために適正かつ大切に使用していきます。

(検査室 可児泰正、薬剤室 浅井学)

## 母乳育児相談室開設のお知らせ



市立恵那病院では、7月1日より助産師による**母子保健指導事業**（えなマンマ“ひとねる”）を以下のとおり開設します。

内容：乳房マッサージ、育児相談など

日時：平日午前9時30分～11時、午後1時～2時30分

場所：外来棟2階 人間ドック診察室

料金：1回 30分 2,000円（税別）

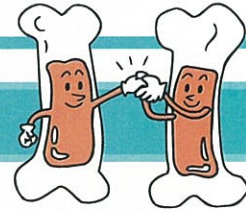
（30分を超えるごとに1,000円（税別）追加料金をいただきます）

完全予約制です。育児に伴う不安がございましたら下記担当者までご予約をお願い致します。

電話0573-26-2121(代表) 外来助産師 森 まで



## 平成25年度恵那市健康・福祉祭に参加して



市立恵那病院が開院してから、毎年、恵那市で開催する健康・福祉祭に参加して今年で9年目を迎えます。今年は、平成25年6月2日に開催され、各ブースに多くの市民の方が参加されていました。

当院では、計24人の職員が医師相談を始めとして総合検診（骨密度測定、体組成測定【体脂肪測定】、脈波測定【血管年齢】、血糖測定、血圧測定）、手洗いチェック、整膚実演及び健康相談（看護師）を分担して行いました。当院のブースに参加された合計人数は369人ととても盛況でした。

このような年1回のイベントに参加して、大きな病気となる前に人間ドックや検診などで自分自身やご家族の健康管理をしていただければと思います。

病院を離れた場所で地域の方の生の声をいただき、病院理念を振り返り、地域の病院として更なる発展が必要だと思いました。平成28年度に新病院を開設する予定であり、それに向けて職員一同業務に励みたいと思います。

### 参加者の内訳

総合検診	216名
医師相談	15名
手洗いチェック	69名
整膚実演	25名
脈波測定	44名



(企画課 今井裕志)



## 出前健康相談等開催のお知らせ

市立恵那病院では、下記日程で医療従事者による健康相談等の催しものを予定しています。参加費用は無料ですので、ぜひ、お買い物のついでにお立ち寄り下さい。

内容：血糖測定、血圧測定、骨密度測定、看護・介護相談など  
 日時：平成25年8月3日（土）9時30分～16時00分  
 場所：パロー恵那店 2階